

先日、あるコンサルティング会社が行った社内情報漏洩などの不正事案に関するリサーチ結果を見た。400社超の企業を対象に調査を行ったもので、過去3年間で不正事案が発生した企業数をカウントしたところ、その数は約半数に及びという。不正会計、情報漏洩、データ偽装など事案はさまざまだが、気になったトレンドがひとつ。それは、不正が発生した場所について、海外子会社の割合が増加基調にある点だ。コロナ禍によりリモートが推進される一方で、本社と海外拠点のface-to-faceの接点が減り、ガバナンスの緩みが海外子会社のリスクを高めている。

海外拠点に対するガバナンスは、米国海外腐敗行為防止法、英国賄賂防止法などのルールや枠組みの把握、現地当局とのRM、グローバルでの内部通報体制の整備まで多岐にわたり、求められる水準が高度化している。JOIでは、昨年からは企業研修サービスをスタートさせたが、海外子会社の管理、贈収賄対応、グローバルコンプライアンスなどのテーマは人気が高い。これからはガバナンスの強化・運用を担う社内人材の育成に加え、外部の力を借りてコンサルティングを行うなど、自社以外のリソースも活用したグローバルでのガバナンスも必要となろう。JOIは、外国法律弁護士事務所などのガバナンスを専門とするプロフェッショナルが多数在籍し、カスタムメイドのセミナーや企業研修などのサービスを展開しているため、いつでもご相談頂きたい。

常務理事 田丸伸介

海外投融資

Vol.30 No.3 (通巻177号)
2021年5月25日発行

発行
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人
日塔 貴昭
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311 (代)
URL. www.joi.or.jp

制作協力
(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



九段だより

日本の鉄道全線に乗るといふ人生 (後編)

「阿房と云ふのは、人の思はくに調子を合はせてさう云ふだけの話で、自分で勿論阿房だなどと考へてはゐない。用事がなければどこへも行つてはいけなないと云ふわけはない。なんにも用事がないけれど、汽車に乗つて大阪へ行つて来ようと思ふ。」

内田百閒の名著『阿房列車』の書き出しである。30代のころ、私はなんにも用事なく寝台列車に乗り、札幌や金沢に出掛けていた。その動機はストレス解消であつて「完乗熱」はおまけであつた。

私の「完乗熱」が不可逆的に再燃したのは、大阪に単身赴任して有り余る自由時間を得た2008年からである。大阪からだ金曜夜の夜行バスで出掛け、日曜の夜までに長崎や鹿児島ローカル線に乗って帰れる。頂上が見えると俄然元気になる登山者のように、全線完乗が視野に見えてくると、週末は家族の面倒を見つつも、西日本だけでなく北海道に飛んだりして未乗線区の退治に明け暮れた。そして2010年8月、福岡県の旧田川線(平成筑豊鉄道)の行橋駅にて旧国鉄(JRと旧国鉄の第三セクター鉄道)全線を乗り終えた。

しかし、それで終われないことはその前から予感していた。確かに当初の念願は「国鉄全線踏破」だったが、国鉄自体1987年に消滅していて、そこに今日的な意義は全くない。私は「完乗」の対象について国土交通省が監修する「鉄道要覧」という冊子に拠ることにした。ここには日本で営

業する鉄道・軌道・索道が網羅されている。このうち索道(ロープウェイやスキー場のリフト)は鉄道のイメージには程遠いが、軌道は路面電車などレールを走るものが多いし、実際に鉄道と同様に営業しているものも多い。そこで「旅客営業をしているすべての鉄道および軌道」という定義に従うことにして、改めて完乗を目指して旅を続けた。

地方の私鉄や路面電車の旅は楽しかったが、地下鉄は退屈で苦痛だった。さらに難儀したのが観光地のモノレールやケーブルカーである。ディズニーランドのモノレールを途中降りずに一周したときの場違い感は今でも忘れられない。また、大分県別府ではケーブルカーが遊園地内にあった。入園券を買って幼児の集団に交じって一人乗車し、山上の見晴らしを一瞥してすぐに降りてきたが、これはもはや「阿房」どころか「不審者」である。

そんな苦難の末、2016年10月9日、箱根十国峠のケーブルカーで鉄道全線完乗となった。爾来、乗りつぶし旅は新線開業の時だけだが、山登りやバー巡りなど理由をこじつけては折々に旅に出ている。

結局のところ、私は何処かを彷徨いたいただけなのだ。これを阿房と云ふかは読者にお任せする。

専務理事 日塔 貴昭



別府で乗ったケーブルカー